R8. 9. 30
佐倉市 教育センターだより Vol.68
令和8年9月30日発行／佐倉市教育センター／TEL.043(486)2400　https://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/kyoikucenter/index.html

こども一人一人の可能性を信じて

佐倉市教育センター所長　塚本　崇

教育センターでは、設立以来、こどもたち一人一人に寄り添いながら、どのような支援が必要かを保護者や教職員の皆様とともに考えてまいりました。現在も、就学や発達、不登校などに関するさまざまな相談が保護者や学校から寄せられており、学校教育相談員、学校支援コーディネーター、多様な学びの相談員、指導主事が連携し、適切な支援につなげられるよう努めています。

私が支援の在り方について考えるとき、大切だと感じるのは、目に見える変化や成果を性急に求めすぎないことです。そのことを強く実感するきっかけとなったのが、場面緘黙のある児童との関わりでした。

その児童は、6年生の頃、人前で話すことがほとんどできませんでした。話したくないのではなく、話そうとしても話せない状態だったのだと思います。周囲からは、「なぜ話さないのか」「少しでも声を出せばよいのに」と受け止められてしまうこともあります。しかし本人にとっては、人前で話すことそのものが大きな不安や緊張を伴うものであり、容易に乗り越えられるものではありませんでした。

当時担任だった私は、卒業までに話せるようになってほしいという思いを抱いていました。しかし、その思いを押し付けることはせず、うなずきや表情、筆談、選択肢を示して答えられる方法など、その子が安心して意思を伝えられる手段を大切にしました。私とのコミュニケーションでは、特に日記でのやり取りを重ねました。また、教室で安心して過ごせることや活動に参加できること、さらに人との関わりを少しずつ広げていくことを支援の中心に据えていました。

そうした関わりを続ける中で、私の話すギャグに対して、その子がとても小さな声で「寒い！」と言って笑ったことがありました。しかし私は、あえてそれを話題にすることなく、「寒いって聞こえたのは気のせいかなあ」とはぐらかしていました。その子にとっての安心感を何よりも大切にしたかったからです。

その後、時が流れ、成人式後の同窓会でその子と再会する機会がありました。すると、その子は自然な様子で話しかけてくれたのです。小学生の頃、人前で話すことが難しかった姿を知っている私にとって、その姿はとても感慨深いものでした。そして、「先生、あの時話さなかった分、今日は朝まで話したい！」と言われたとき、言葉にできないほどの喜びを感じました。

そのとき、支援の成果は必ずしもすぐに現れるものではないこと、そしてこどもたちはそれぞれの歩みの中で確実に成長していくことを改めて実感しました。

私たち大人は、どうしても変化や成果を早く見たくなるものです。しかし、そこはぐっとこらえ、長期的な視点に立って、その時々に必要な支援を考えていくことが大切です。教育センターにおいても、一人一人のこどもがもつ可能性を最大限に伸ばし、自分らしく活躍できる将来を見据えながら、適切な支援につなげてまいります。

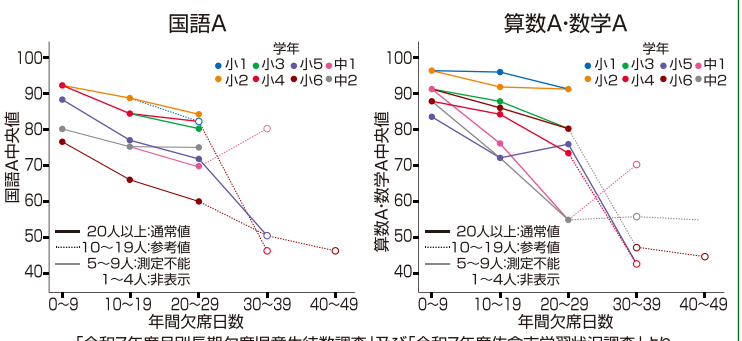
場面緘黙のあったその児童は、大学へ進学し、バンド活動を楽しむなど、多くの仲間に囲まれながら自分らしく人生を歩んでいると話してくれました。こどもたちは、一人一人が大きな可能性を秘めています。私たちはその可能性を信じ、これからもこどもたちの成長を支えてまいります。

センター報告会
第1提案

不登校支援と学力向上をつなぐ授業づくり
～安心して参加できる授業づくり～

毎日の授業における小さな工夫が、こどもの安心感と学びを支えます

欠席日数と学力（中央値）の相関比較



「令和7年度月別長期欠席児童生徒数調査」及び「令和7年度佐倉市学習状況調査」より

いま、授業の中での支援が求められています

- 不登校児童生徒数は、佐倉市全体で高止まりしている
- 欠席日数が増えるほど、学力の中央値が下がる傾向がある
- 「分からない」と「学校に行きづらい」は、相互に影響する

学力とつながる4つの要素（全国学調クロス集計から見えること）



- 承認「認められる」
- 自己肯定感「自分にはよさがある」
- 楽しさ「学校が楽しい」
- 知的好奇心「もっと知りたい」

学力は学習時間だけでなく、子どもの「心の状態」や「学校とのつながり」と深く連動している。

明日からできる3つのアプローチ

①参加方法を広げる



・ペア学習　・ミニホワイトボード
・ICT（ミライシード等）・付箋

書く、選ぶ、ICTで答えることも立派な「参加」。

②小さな「できた」を積み重ねる

- 選択課題 →主体性を引き出す
- 段階課題 →個別最適な学びを支える
- 振り返り →学びを深める
- 見える化 →意欲と自己肯定感を高める

「できた」「分かった」「認められた」の積み重ねが、学校への所属感につながる。

③小さな変化を共有する



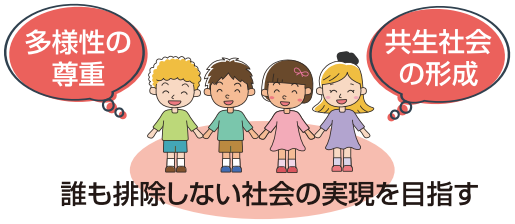
関わる人が増えると連携が難しい。だからこそデジタルで「見えにくいサイン」を即時共有する。

センター報告会
第2提案

佐倉市のインクルーシブ教育システムの現状
～教育的ニーズに応じたチームでの支援を目指して～

インクルーシブ教育とは「理念」

障害の有無、人種、国籍、性別などの違いに関わらず、すべてのこどもが分け隔てなく同じ場で共に教育を受けること。



誰も排除しない社会の実現を目指す

佐倉市では、一人一人の多様な教育的ニーズに応えるため、「佐倉市版スクールクラスター」をつくり、インクルーシブ教育システムの構築を目指しています。

ライフサポートファイル

成育歴、実態、支援内容などを記録して関係機関で情報共有するために、保護者の方に配付し、活用しています。

佐倉市版スクールクラスター（地域内の教育資源の組合せ）

佐倉市は、特別な支援が必要なこどもの教育的ニーズに応じて、地域内の専門性を活用した適切な支援を行います



通級指導教室（言語障害）
印旛特別支援学校（知的障害）
桜が丘特別支援学校（肢体不自由・通級）
四街道特別支援学校（病弱・身体虚弱・通級）
千葉盲学校（視覚障害・通級）
千葉聾学校（聴覚障害・通級）



相談支援事業所（福祉サービス等）
医療機関（心身の健康・発達）

本人、保護者、学校の意向に応じて専門的な指導や助言

佐倉市教育センター

小・中学校 ⇔ 特別な教育的ニーズ / 専門性の提供 ⇔ 佐倉市教育センター ⇔ 特別な教育的ニーズ / 専門性の提供 ⇔ 特別支援学校

・就学相談　・専門性向上
・発達相談　・協働体制構築のための調整





特別な支援が必要なこども

必要に応じて就学相談・発達相談「より効果的な学びの場・学びの方略」

障害福祉課
医療機関
佐倉市こども家庭センター
健康管理センター ことばと発達の相談室
児童発達支援機関
幼稚園・保育園
盲・聾学校幼稚部

令和7年度 佐倉市学習状況調査 ～学力向上に向けた授業改善のために～

令和７年度佐倉市学習状況調査について、基礎基本に関する問題で、課題の見られた問題の正答率と授業改善の手立てをまとめました。また、児童・生徒の学習意識調査の「難しい問題でも、あきらめないで考えるようにしている」と、学力との相関関係を調べました。ここでは調査結果の一部を掲載します。

基礎基本の結果と手立て



国語　漢字の読み書きや言葉のきまりについての問題

学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学２年	海　※読み	97.4%	後　※対義語	70.7%
小学４年	愛　※読み	98.6%	勝つ　※書き	46.9%
小学６年	真面目　※読み	99.1%	構造　※書き	36.6%
中学２年	拍　※書き	99.0%	載せる　※品詞	44.0%

手立て

○既習の漢字は生活の中で積極的に使うとともに、文の意味を考えながら、適切に使うことができるよう声掛けする。
○文法についても、既習事項を授業内で復習したり、間違えやすい品詞について小テストを行ったりするなどし、定着を図る。

算数・数学　計算や図形などの基礎的な内容についての問題

学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学１年	０＋４	99.0%	１じはん　※時刻	78.2%
小学３年	２４３＋６２５	98.1%	１㎞50mは何mか	68.2%
小学５年	３×０．６	90.4%	(５／８)－０．５	52.2%
中学１年	(－21)÷７	96.4%	30 を素因数分解	57.6%

手立て

○具体物の操作や他教科との横断的な指導を取り入れ、実生活と結び付けた数量感覚が身につけられるようにする。
○知識の定着を図るために、タブレットを活用した反復練習を行う等、問題練習の機会を増やす。

理科　物質・エネルギー・生命・地球の基礎的な内容についての問題

学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学３年	音の大きさを変えた時の様子	95.8%	太陽がのぼる方位	64.3%
小学６年	月の表面の様子	96.4%	ものが燃える時の様子	54.5%
中学２年	$NaHCO_3$の熱分解時の気体	96.9%	示相、示準化石の分類	39.4%

手立て

○実験・観察を行う際、キーワードを押さえるとともに、因果関係を説明したり、ノートに書いたりする活動を取り入れる。
○既習の器具名や計算方法について、活用する場面ごとに確認を行い、反復的な指導を通して定着を図る。

外国語　リスニング・語形変化・場に応じた表現・読解・英作文についての問題

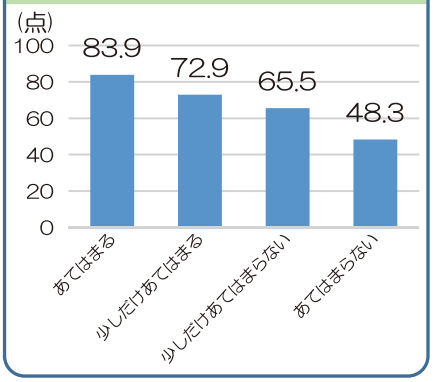
学年	正答率が高い問題		正答率が低い問題	
小学５年	できることに関する聞き取り	99.7%	できることに関する質問	35.9%
中学１年	一般動詞含む肯定文の語順	98.9%	一般動詞：三人称単数	43.9%

手立て

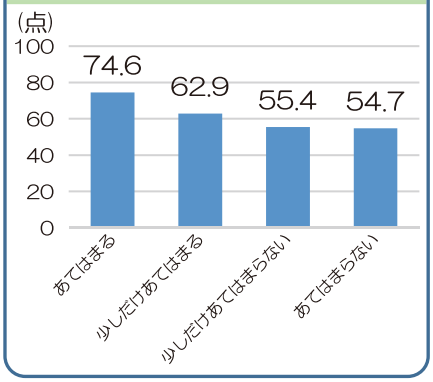
○授業内で簡単な英語での会話の充実を図り、やり取りを繰り返し行い、慣れさせていく。
○リスニングを多く取り入れ、普段から英語表現に触れさせ、聞き取る能力の定着を図る。

学習意識調査より　～あきらめないことと学力の相関～

「難しい問題でも、あきらめないで考えるようにしている」という設問と理科の平均正答率の相関（小４）



「難しい問題でも、あきらめないで考えるようにしている」という設問と理科の平均正答率の相関（中２）



左のグラフは、児童生徒の学習意識調査の結果の一部です。「難しい問題でも、あきらめないで考えるようにしている」という問いに肯定的な回答をした児童生徒ほど、理科の平均正答率が高い傾向が見られました。また、他教科も同様の傾向でした。この結果から、課題に対して粘り強く考え続ける態度を育成することが重要で、そのためには、課題を協働的に追究させたり、試行錯誤する過程を評価し、積極的に認めたりすることが大切です。

抱え込まずに相談してください
いろいろな相談の場・居場所があります

特別支援教育へのサポート　～適切な支援による着実な成長を～

発達相談

学校（園）や家庭の生活の中でうまくいかないことがある、学習の定着に時間がかかる、発音や聞こえに心配がある、医療的ケアの必要がある等、困り感を抱えた幼児・児童・生徒、その保護者を対象に相談事業を行っています。

学校（園）や家庭の様子から実態を把握し、適切な支援について学校（園）と連携を図り、充実した学びや生活につなげていきます。

就学相談

保護者や学校からの就学に関する相談に応じます。関係機関等と連携しながら、その子にとって一番適切な学びの場や、教育支援の内容について一緒に考えていきます。



各相談の実施 日時・場所・連絡先

相談日
月曜日～金曜日
（祝日、年末年始を除く）
午前10時30分～午後5時00分

場 所
佐倉市将門町7
（佐倉市立佐倉東小学校内）

電 話
486－2400
090－1508－7228



校内教育支援センター
～市内全ての中学校に加え、小学校にも9校できました～

クラスに入ることが難しい児童生徒に対し、安心して過ごせる居場所を確保するとともに、個別の学習支援や教育相談を実施し、学校生活の充実や社会的自立に向けた支援を行っています。





ルームさくら　～学校の外にも居場所があります～

何らかの要因によって学校に行っていない小・中学生を対象に、社会的自立を目指すとともに、居場所の提供及び自主性・自発性の育成を支援しています。

○学校の登校日と同様に教室を開いています。
月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）午前9時半～午後3時

○児童生徒の悩みや進路相談、保護者と面談も行っています。

○保護者・学校・ルームさくらが一体となった不登校相談のネットワークづくりを進めています。



志津教室
佐倉市西志津4－1－2
（西志津ふれあいセンター2階）
☎489－1002
（第2・4月曜日お休み）

臼井教室
佐倉市染井野3－3－7
（千代田・染井野ふれあいセンター1階）
☎080－1586－5911
（第2・4月曜日お休み）

佐倉教室
佐倉市栄町8－7
（佐倉市ヤングプラザ2階）
☎484－6611

教育電話相談　～児童生徒、保護者の相談を受け付けます～

経験豊富な相談員が丁寧に対応し、アドバイスします。
より専門的なアドバイスを受けられる相談窓口の紹介もしています。　☎484－6611